

筑波大学附属病院 がん病態栄養専門管理栄養士 養成研修
2026 年度（4 期生）募集要項

2025 年 10 月

1. 研修目的

本研修は、高度実践能力を有するがん病態栄養専門管理栄養士を養成し、専門的知識・技術を用いたがん患者の食事や栄養の課題を解決し、質の高いがん医療の提供に貢献する人材を育成することを目的とする。

2. 研修目標

- 1) がんの栄養療法に関する専門的知識及び患者個々に応じた、きめ細かな栄養管理・栄養指導を行う技術を習得する。
- 2) 周術期や緩和ケアに関する知識及びがん治療のチームの一員として栄養に関わる問題の解決策について多職種に対し提案を行う技術を習得する。
- 3) 最新の栄養情報や臨床情報・ガイドライン等を、国内外のデータベースや文献から取得して活用し、新たなエビデンスの構築に向けて臨床研究を展開することができる人材を育成する。

3. 修了要件

- 本研修を修了するためには、以下の要件を満たす必要がある。
- 1) 全研修プログラムを履修する。
 - 2) 全課題の評価が A～C である。
 - 3) 実習評価が A～C である。

本研修は、日本病態栄養学会認定 がん病態栄養専門管理栄養士の申請条件である当該学会認定 実地修練施設の研修カリキュラムに基づいており、修了者は申請要件の一部とすることができます。

4. 定員

30 名

5. 受講資格

- 日本病態栄養学会の定める、がん病態栄養専門管理栄養士の申請条件（第 2 章第 4 条）の（1）～（4）を満たしていることを受講資格とする。
- (1) 日本国の管理栄養士免許を有し、管理栄養士としての人格と見識を備えていること。
 - (2) 学会および日本栄養士会の会員であること。

- (3) 申請年度分までの両会年会費を完納していること。
- (4) 学会認定「病態栄養専門（認定）管理栄養士」または、日本栄養士会認定「臨床栄養認定管理栄養士」を取得していること。

6. 研修期間

2026年4月～2026年7月

7. 研修の募集期間

2025年10月16日（木）～2026年2月20日（金）当日消印有効
(定員に達した場合は募集を締め切ります)

8. 応募書類・応募方法

- 1) 受講願書（別記様式1）
- 2) 履歴書（別記様式2-1）
- 3) 業務実績書（別記様式2-2）
- 4) 申請レポート テーマ：「私のキャリアビジョン」（別記様式3）
- 5) 所属長の推薦状（署名、捺印したもの）（別記様式4-1）
- 6) 管理栄養士免許の写し（A4版でコピー）
- 7) 日本病態栄養学会認定「病態栄養専門（認定）管理栄養士」の写し または、日本栄養士会認定「臨床栄養認定管理栄養士」の写し（A4版でコピー）

* 筑波大学附属病院 総合がん診療センター ホームページ、または病態栄養部ホームページより、上記1)～5)の書式をダウンロードの上、作成し、1)～7)を簡易書留で郵送（送料は申請者負担）する。

*宛先ラベルは、ホームページよりダウンロードして印刷。必要事項を記入する。

9. 研修生の選抜方法

応募書類を基に選抜する。

10. 研修方法

講義・実習・演習があり、オンライン・オンデマンド・対面で行う。
オンライン、オンライン視聴で行う研修は、各自がパソコン、及びオンライン環境を準備し、適切な学習環境を整え参加する。また、パソコンでファイルの送受信ができるメールアドレスを準備する。
対面で行う研修は、筑波大学附属病院にて行う。

11. 研修費用

受講料負担なし

* オンライン受講に必要なパソコン等のデバイス、オンライン環境設置、通信費用、通学に必要な交通・宿泊費、学習や自己研鑽に必要な文献や道具の購入、及び、実習時に必要な予防接種費用等の受講料以外に係る費用は個人負担となる。

12. 研修内容、研修時間

研修プログラムは、全科目必修である。

単元	目標	項目	概要	時間	形式
1. がんに関する一般的知識	がん治療に関する一般的知識を理解する	がん治療一般 がん臨床検査の理解	1)がん対策基本法とがん対策推進基本計画 2)各種がんの疫学、臨床所見、診断 3)各種がんの治療、合併症、予後	8	講義（オンデマンド）
2. がんの病態と治療	各種がんの基礎知識と最新の治療を理解する	症状と栄養管理	1)食道、頭頸部がん、胃がんの基礎知識と栄養管理 2)大腸がん、肝・胆・脾がんの基礎知識と栄養管理 3)乳がん、子宮頸がん、卵巣がんの基礎知識と栄養管理 4)血液がん、小児がん、希少がんの基礎知識と栄養管理	48	講義（オンデマンド）
	がん治療で用いられる薬剤の種類の理解と薬剤による食事の影響を理解する	がん患者に用いられる薬剤	5)がん治療で用いられる薬剤 6)薬剤による食事の影響	12	講義（オンデマンド）
	がん化学療法の種類、支持療法、化学療法のレジメンと有害事象について学ぶ	がん化学療法時の栄養管理	7)がん化学療法の種類、支持療法、化学療法のレジメンと有害事象	16	講義（オンデマンド）
	がんの集学的治療による	術前・術後の栄養管理	8)がんの集学的治療 9)周術期の薬剤	32	講義（オンデマンド）

	食事や栄養の影響を理解する	がん放射線療法の栄養管理			
3. がん患者の栄養管理の基礎的事項	がん患者の栄養アセスメント、適切な栄養・食事療法について理解する	栄養アセスメント・栄養診断に基づいた栄養管理	1)がん患者の栄養アセスメントに必要な情報収集(問診・カルテ・食事摂取) 2)栄養スクリーニングとアセスメント 3)栄養ケアプロセスの概要の理解 4)PES(Problem Related to Etiology as Evidenced by Signs and Symptoms)による栄養診断の実際 5)がん患者の栄養診断、モニタリング 6)栄養管理計画を作成(食事、経腸栄養、静脈栄養) 7) GLIM 基準による低栄養の判定、モニタリングと再評価	40	講義(オンデマンド) 演習(対面)
4. がん患者に対する栄養管理の実践	がん患者の個別性に応じた栄養指導(患者・家族の支援含む)について理解する	フードサービスマネジメント 個人栄養指導の実践	1)がん患者の病態に合わせた食事の工夫、献立や調理 2)給食管理のマネジメント、衛生管理、リスクマネジメント 3)各症状と関連する栄養アセスメント、適切な栄養・食事療法 4)がん患者の個人栄養指導(患者・家族の支援含む)	40	講義・演習(対面／オンライン)
5. ICT を用いたコミュニケーション技術	対象に応じた適切なコミュニケーション、及び ICT を用いた教育方法を学ぶ	個人栄養指導の実践	1)対面および ICT を用いたコミュニケーションと面談技術	16	演習(対面／オンライン)
	心身のアセスメントに必要な心の動	がん患者に	2)ICT を用いた心身のアセスメントの技術	16	演習(対面／オンライン)

	な技術	きと食事			ン)
6. 多職種チームアプローチ	チーム医療の実際について学び、多職種の役割について理解する	チームアプローチの実際と管理栄養士の役割 地域連携の取り組み、在宅支援	1) 多職種チームアプローチの理論と実践技術 2) 情報提供と意思決定支援のスキル 3) 栄養マネジメントとリーダーシップ 4) 多職種教育 5) 地域連携	24	講義(オンデマンド) 演習(対面／オンライン)
7. 臨床研究	クリニッククエスチョンに応じた文献検討等から最新知見を共有する	栄養マネジメントとリーダーシップ	1) 課題研究 2) 発表	8	講演・演習(対面／オンライン)
8. 演習	実践的な演習を通して、必要なスキルの習得、及び自己の課題の分析をする	症例検討の手法	1) 対面での面接技術 2) ICTを用いた面接技術 3) 症例検討 4) プрезентーション 5) 実践トレーニング	40	演習(対面／オンライン)

13. 講義等オンライン (開講時間: 13:30-15:30)

予定日

4月	4日 (土)
5月	16日 (土) 23日 (土)
6月	20日 (土) 27日 (土)

* 講師等の都合により変更する場合がある。

* 予備日を含む。

14. 実習 (5日間、計40時間)

予定日

1G	6月29日 (月) ~ 7月3日 (金)
2G	7月6日 (月) ~ 7月10日 (金)

* 実習グループはランダムに割り当てる。

* 実習期間中の一部にオンラインによる講義・演習も行う。

実習施設: 筑波大学附属病院

本研修は、日本癌治療学会／ファイザー 「がん患者支援の推進に対する医療者への教育プロジェクト」の助成を受けて実施する。

【問い合わせ先】

筑波大学附属病院 総合がん診療センター
e-mail : ccc.csrdc@un.tsukuba.ac.jp